

「自分の命は自分で守ることのできる児童の育成をめざし」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 土佐清水市立下川口小学校

I 学校における背景、問題意識

土佐清水市立下川口小学校は、海拔 4 m で海岸からの距離約 500m に位置し、津波最大浸水深も 12m と想定されている。

そのような状況下であり、これまで危機管理マニュアルの改訂、防災学習の在り方、避難訓練の在り方を考え直し、本校独自に取組を行ってきた。しかし、学校全体での危機感が乏しく、このままでは必ず起こるとされる南海トラフ地震から子どもの命を守ることができないのではと考えていた。

下川口地区は、平成 13 年 9 月に起こった西南豪雨災害において未曾有の被害を被った。しかし、そのような中で、下川口地区は、日頃からの地域の強い絆と消防団を中心とした迅速な対応により、死者、けが人が一人も出なかったという奇跡を生み出した地域である。

地域においても、最近では避難訓練、避難場所の整備等、南海トラフ地震対策を進めているが、学校とはあまり接点がなかった。

こうした状況の中、本校が本事業の拠点校となり防災教育を進めていくことは、学校はもとより地域にとっても一定の刺激となるとともに、子ども達の命を守ることにつながると考え取り組むこととした。

II 取組のポイント

- 地震の専門家から防災教育を学ぶ。
- 「高知県安全教育プログラム」を活用し、学級活動を中心として防災の授業に取り組む。
- 様々な状況を想定しての避難訓練を実施する。
- 子ども民生委員の活動を防災教育に活かす。
- 地域に防災教育の取組を啓発する。

III 取組の概要

1 下川口小学校の防災教育の目標

「主体的な判断で行動し、自分の命は自分で守ることのできる児童の育成」
～どんな状況でも「自分の命を守りきる力」を身に付ける～

2 取組内容

(1) 大木聖子先生（慶應義塾大学 准教授）を講師に招いての学習

【1回目】6月16日

「地震から命を守るポイントを知って、家族にもおしえてあげよう」というめあてでの学習をした。

「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」の身を守るポイントを示し、実際の下川口小学校の様々な場所を例にして、危険箇所をみんなで探しながら、命を守る行動を考えていった。その後、音楽室、家庭科室でのショート訓練を実施した。授業の後、特別教室から避難場所の天満宮までの訓練を大木先生に見ていただいた。



家庭科室でダンゴムシ



危険箇所を探す

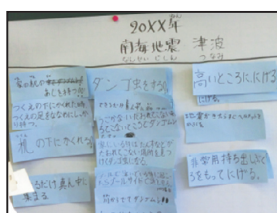
【2回目】9月18日

「20××年に南海トラフ大地震が起こった。それまでにやることはどんなこと、起こった時どうするか、その後で何ができるか」について学習した。

年表を用意し、児童達にグループで考えさせ、発表させ、書いた紙をその年表に貼っていった。その学習の中で、地震が起きたときに一人で逃げられるか、親と1日後まで会えなくても大丈夫かなど児童に尋ねながら、先ず高台に逃げることの大切さを教えていただいた。



それまでにやること



年表づくり

(2) 特別活動における防災授業の実施

本校は来年度より完全複式となる。その準備として、今年度の防災の授業は低・中・高で行うことにした。「高知県安全教育プログラム」を活用し、その内容を特別活動(学級活動)で実施した。防災教育公開授業を研究発表会も含めて3回行った。県教委学校安全対策課や西部教育事務所の先生方に指導案へのアドバイスをいただきながら実施できた。

【第1回】

〈第1・2学年〉

題 材 地震が来たらどうする？

ねらい 教室で地震が起きた時、自分の身を守る方法を考える

〈第3・4学年〉

題 材 どこにいても地震の揺れから自分を守ろう

ねらい いろいろな場所で、地震が起こった時の身の守り方を考える。

〈第5・6学年〉

題 材 南海地震に備えよう

ねらい 南海トラフ地震について知り、その時にどんな行動をとればよいか考える。



1・2年生授業



3・4年生授業

【第2回】

〈第1・2学年〉

題 材 津波から、身を守るには？

ねらい 南海トラフ地震発生時の津波からの避難方法を考える。

〈第3・4学年〉

題 材 津波が心配！揺れたら急いで高

台へ

ねらい 登下校中に一人でどこにいても、地震・津波から安全に避難する方法を考える。

〈第5・6学年〉

題 材 これが大切！我が家の備え

ねらい 非常持ち出し袋の中身について話し合い、どのような備えが必要か考える。



各地区の避難場所の確認(1・2年生)



非常持ち出し袋の中身を考える(5・6年生)

【第3回】研究発表

〈第1・2学年〉

題 材 火災から、身を守るには？

ねらい 大きな揺れの後の火災からの避難について考える。

〈第3・4学年〉

題 材 地域の防災に関わる人たち

ねらい 地域の防災について考え、自分達にできることを実践する。

〈第5・6学年〉

題 材 災害後の暮らしに備えて(避難生活を考えよう)

ねらい 災害後の暮らし(避難生活)について理解し、今、何ができるかを考える。

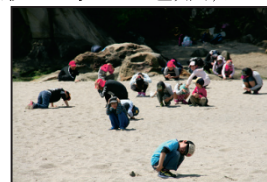
(3) 様々な状況を想定した避難訓練

昨年までは、教室で授業中に地震が発生したという想定での避難訓練が中心だった。今年度はもっと多くの状況を考えた避難訓練を計画した。

更にこの機会に地域との合同避難訓練も実施しようと、地域との話し合いを進めていき実施することができた。

また、8月に緊急地震速報が学校に設置され、それ以降は装置を利用した訓練を実施した。

〈第1回〉4/17(木)



桜浜で地震発生

- ・新入生歓迎遠足で実施
- ・桜浜から近くの指定避難場所の高台まで
〈第2回〉5/2(金)
- ・授業中各教室から
- ・1年生は学校では初めての避難訓練
〈第3回〉6/16(月)公開授業日
- ・特別教室で授業中実施

※ここより、緊急地震速報を使って実施

- 〈第4回〉9/18(木)公開授業日
- ・普通教室で授業中実施
- ・避難経路に障害物を設置しての訓練
(非常階段が通れない、校庭の西門が通れないという設定)

【10月は避難訓練強化月間として実施】

- 〈第5回〉10/6(月)
- ・始業前、児童は様々な場所で活動、教職員は授業の準備等で活動中に実施

- 〈第6回〉10/17(金)
- ・掃除の時間に実施
- ・児童は縦割り班で掃除中に実施



障害物設置

- 〈第7回〉10/22(水)
- ・授業中、避難経路に障害物を設定しての実施

- 〈第8回〉10/28(火)
- ・放課後子ども教室時に実施



協力者も一緒に

- ・体育館で外部の協力者と活動中に実施

※10/6は教職員及び児童に知らせずに実施、他は児童に知らせずに実施

- 〈第9回〉11/5(水)
- ・緊急地震速報全国一斉訓練に参加
- ・ショート訓練で実施
- 〈第10回〉11/15(土)
- ・人権参観日・人権講演会終了後、各学級に移動した後、保護者と合同で実施
- 〈第11回〉12/2(火)
- ・芋やき遠足中に海岸で実施

◎地域合同避難訓練

9月6日(土)に、下川口浦・郷・保育所・小学校合同で地震・津波避難訓練を実施した。郷地区は市の防災訓練の日に実施していたが、日程



地域の人と

を合わせてくれたことで合同で実施することができた。8月末に両地区の区長さん他数名が集まり訓練内容について確認をして、両地区に共通理解していただき実施に至った。郷地区は炊き出し訓練もするというので、1年生から4年生までは避難場所の天満宮でおにぎり配りを手伝った。5・6年生は避難訓練後、浦地区で独居老人宅を訪れ安全確認をしている活動と一緒に参加した。



おにぎり配り



独居の高齢者訪問

(4) 防災教育と子ども民生委員の活動

本校は昨年度から、5・6年生が総合的な学習の時間の中で「子ども民生委員」の活動に取り組んでいる。今年度は防災学習の中で防災マップづくりや下川口地区の避難場所の確認、西南豪雨災害の学習に取り組んだ。また、子ども民生委員の活動の中で、地域の課題について区長さんに話を聞き取る中で、防災マップの見直しをしようと考えた。

そこで防災マップのテーマを「死者0をめざして」として、マップに、独居老人、体の不自由な人、空き屋等の情報も入れて作成しようと考えた。その後、地域の区長さんや老人クラブの会長さんに来ていただき、一緒にマップ作りをしていった。

子ども民生委員の活動をしていたからこそその気付きだったと考える。



区長さんも一緒に



独居老人(紫)
体の不自由な人(赤)
空き屋(緑)と貼っていく

(5) 各学年の取組 (一部)

〈1・2年生〉

- ・防災キャラクターの作成
- ・各地区の避難場所調べ

〈3・4年生〉

- ・防災マップ作り
- ・防災新聞作り

〈5・6年〉

- ・防災ノートの活用
- ・防災マップ作り



(5) その他の取組

①運動会での防災競技の実施

運動会は地域の人が一番多く集まる行事である。そこで、防災競技を実施することで、少しは防災教育の啓発になると考えた。



運動会・防災競技

また、その中で、大木先生から教えていただいた「じしんだんゴムシのダンス」も披露した。このダンスは、運動会でも披露し、保育園児にも教えた。また、研究発表会でも全校で披露した。



発表会での「じしんだんゴムシ」

②防災コーナーの設置

2階廊下の掲示板に防災コーナーを設け、防災ポスターや防災標語を貼った。



IV 成果と今後の取組

【成果】

- ・拠点校になったことで、今までの取組を見直し、防災教育について研修を重ねることができた。
- ・児童も教員も大木先生から直接防災について学ぶことができた。先生の地震から命を守るという熱意を直接感じることができた。
- ・校内研修で、学校安全対策課や西部教育事務所の支援をいただき指導案検討ができた。それにより防災意識も高まり、より良い防災の授業を作っていくことができた。
- ・想定を変えながら避難訓練を繰り返し行うことで、児童が地震から命を守る行動を身に付けてきた。
- ・今年度初めて地域と合同避難訓練ができた。地域の人達の地元の子ども達への思いを感じることができた。
- ・学校だよりで防災教育について地域に知らせることで啓発となった。また、そのことが研究発表会への地域からの多数の参加者につながったと考える。
- ・何より、この1年で児童や教職員の防災意識が高まった。

【今後の取組】

- ・保護者のアンケートから、保護者の防災意識がまだ低い。今後は家庭との連携を工夫していく。
- ・子ども民生委員活動と防災教育とを今後もつなげていく。
- ・学校での防災学習と地域の防災活動とをつなげる工夫をしていく。
- ・地震から身を守る姿勢や行動が身に付いてきたが、実際に地震が起こった時に主体的な行動がとれるかについては不安がある。繰り返し訓練を実施していく。
- ・登下校中の避難訓練ができていない。今後さらに様々な状況を設定しての訓練を実施していく。
- ・災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板を活用した引き渡し訓練を実施する。
- ・「高知県安全教育プログラム」を参考にして継続できる本校の防災教育を確立していく。